



教育あがつま HOT NEWS

第55号
平成30年3月15日発行
吾妻教育事務所
吾妻郡町村教育委員会連絡協議会

みんなに分かりやすい授業づくり

～エリアサポートモデル校(長野原町立応桑小学校)～



特別支援教育

長野原町立応桑小学校は、今年度、群馬県教育委員会より「エリアサポートモデル校」の指定を受け、「分かりやすい授業づくり」に取り組みました。この取組によって、特別な支援を必要とする児童だけでなく、全児童が生き生きと学習に向かう姿が見られるようになりました。これまでの取組の中から主な実践を紹介します。

実践1

児童の実態を把握し、児童の意識をイメージしながら、授業を構想しました。



この教材を使ったら、〇君はこんな反応をするだろう……。この発問をしたら、Kちゃんは、きっとこんなことを言うだろう……。と、児童の意識を予想しながら授業づくりをしました（写真は、児童にとって身近な物を使い、分数の意味を考えさせた時のものです）。適切な実態把握をもとに、児童の意識をイメージしながら授業を構想することで、学習意欲を高めたり理解を深めたりすることができました。

2年生「算数」



斜めに切ろうかな。
横に切ろうかな。

実践2

友達の発言を見本にするなど、交流場面を工夫しました。



他の児童の説明を見本にしながら自分の考えを説明する交流を取り入れました（写真は、平行四辺形や三角形の面積を求める公式を使って、台形の面積の求め方を説明する場面です）。児童同士が説明することで、曖昧だった理解が確かなものになり、支援が必要な児童も自信をもてるようになりました。

5年生「算数」



説明することが苦手だったけど、得意になってきたよ。

実践3

教師からの説明を短くし、児童の活動時間を確保することを意識しました。



授業の導入場面で、絵や写真、図などを使ってできるだけ説明を短くするように心がけました（写真は、チームビルディングの場面です）。聞くだけでは注意が逸れ、理解に時間がかかった児童も、見通しをもって集中して活動できる場面が増えました。

4年生「学級活動」



絵や写真で説明してもらえると分かりやすいな。

応桑小学校では、「分かりやすい授業」を目指し、全職員が協働しながら児童の実態把握に基づいた授業を構想しました。また、操作や思考する時間を確保することを大切にした授業実践を行いました。

特別な支援を必要とする児童生徒の目線に立ち、「みんなに分かりやすい授業とは何か」を考え、授業改善に取り組むことが大切です。